

部活動に関する安全対策マニュアル

宮古商工高等学校

このマニュアルは、部活動時の危険を回避し、安全に実施するため示すものであり、全職員の共通認識において、安全対策を講じる。

1 共通事項

(1) 活動場所の環境整備

- ①各校舎保健部主導による安全点検の他、各部において活動場所の安全点検を週初めに必ず行う。
- ②施設・用具に不備がある場合は、活動場所・用具の使用を停止し、修繕について報告・相談する。
- ③老朽化した用具・ネット等は使用しない。

(2) 顧問や指導者不在時の部活動について

- ①顧問から事前に指示の上、アップ・基礎メニュー・ドリル等、危険度が低いメニューとする。
- ②全職員対象の会議時は、部活動を禁止とする。
- ③各部の特性により、別に示す禁止事項や練習メニューを絶対に行わない。
- ④不測の事態に備え非常時の連絡先を把握しておくこと。会議中は事務室に緊急連絡を入れる。

(3) 熱中症対策について

- ①各活動場所に設置してある「熱中症計」を確認し、高温時（31℃）・暑さ指数（WBGT）が 28℃を越える場合は激しい運動や持久走を行わない。
- ②気温高温時は、休憩を 30 分に一回程度とるように努め、水分補給をこまめに行う。
- ③各校舎においては、製氷機の氷を適に使用して良い。

(4) 落雷事故防止について

- ①雷注意報、警報の発令があり落雷の危険性が高いと判断した場合は直ちに練習、試合を中止する。
- ②頭上に厚い黒雲、突風、急激な気温低下、激しい雨、雷鳴、雷光、等の予兆現象があった場合は状況を判断し早急に練習や試合を中止して、近くの建物、自動車、バスの中などの安全な場所に避難する。
樹木の近く、テントや仮小屋等へは、落雷の危険が高いため避難しないこと。
- ③雷が止んで 30 分以上経過してから屋外にでること。（気象予報などで雷に関する情報を入手し、慎重に判断すること。）

(5) 自然災害等への対応

- ①災害発生時は、直ちに活動を停止し、避難行動に入る。
- ②学校防災計画を確認し、顧問・部員全員に対して避難場所・避難経路について周知する。

(6) 緊急時の対応

- ①各活動場所において、AED 設置の有無、設置場所を確認し、事前に周知を図る。
- ②体調不良・ケガが発生した場合は、応急手当や適切な対処を行うこと。特に、熱中症症状や大量出血、意識がもうろうとしている場合など、安易な判断をせず、救急車を要請する。

2 各活動場所における安全対策

(1) 屋内（体育館・柔剣道場・レスリング道場・弓道場・教室等）

- ①活動するスペースを十分に確保し、床や周囲に衝突する危険があるものを置かない。
- ②体育館を共有する場合には、区分けのネットを確実に張る。
- ③活動中は、倉庫・部室の扉を確実に閉める。
- ④活動後の消灯・施錠を確認すること。火器の使用は防災管理規程による。

(2) 屋外（グラウンド・ヨットハーバー・外部テニスコート等）

- ①活動する場所の周囲に危険因子が無いか確認してから活動する。
- ②防球ネット・ゴール等の破れ・破損が無いか確認する。
- ③グラウンド・コートは、整備を入念に行い、転倒や不測の事故の予防を徹底する。
- ④活動場所への移動時は、交通安全に努め、通行禁止としている場所を通らない。

3 種目ごとの安全対策マニュアル

<陸上競技>

- ①陸上競技の投擲種目練習は顧問不在時には行わない。
- ②投擲ゲージを必ず設置し、周囲に聞こえるように発声してから投げる。
- ③部活動開始時に、種目練習の周知を行う。
- ④競技場の走路は一方通行とし、走路横断時は駆け足移動とする。

<バスケットボール・バレーボール・卓球 等 体育館種目>

- ①ウェイトトレーニング、接触プレー、試合形式のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②使用用具の点検、消毒を行う。
- ③練習時、支柱には必ずカバーを装着し、ネット、アンテナの破損が無いか確認する。
- ④支柱やネットの設置は、必ず複数名で行う。

<硬式野球・ソフトボール>

- ①フリーバッティングを行うときは、バッティングゲージと防球ネットを必ず設置する。
- ②ノック補助者は、ヘルメットを着用する。
- ③防球ネットは、使用前に破れ・破損が無いか確認する。
- ④バッティングマシン使用時は、周囲の安全を確認し、補助者は必ずボール挿入の合図を発声する。

<ラグビー・サッカー>

- ①ウェイトトレーニング、接触プレー、試合形式のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②コンタクトプレーの練習は、ヘッドギア、マウスピースを必ず着用する。
- ③サッカーゴールの移動は、必ず10名以上で行い、顧問立ち合い時とする。
- ④接触プレーによる、裂傷や打撲に備え、救急道具を常備する。

<ソフトテニス>

- ①コート整備のローラーは複数で操作し、周囲の安全を確認しながら行う。
- ②コート上の危険因子（釘、石）が無いか練習前に確認する。

<弓道>

- ①弓具の破損が無いか、適切なサイズであるか、常時確認する。
- ②弓を引く人の周囲の安全を確認する。近づかない、話かけない。
- ③矢道に立ち入るときは、矢道及び場内に人がいないことを確認し、安全確認の発声をしてから入る。

<レスリング・柔道・剣道>

- ①ウェイトトレーニング、実戦形式（乱取り、投げ込み、寝技）のメニューを顧問不在時には行わない。
- ②一つの場内で、同時に乱取りを行う場合は3組までとする。
- ③使用前に竹刀、防具の破損が無いか点検する。
- ④受け身、体裁き、足裁きの基本的な動きを習得してから、実戦形式のメニューを行う。

<ヨット>

- ①ヨットハーバー入退場時の名簿記入、出艇申告、着艇申告を必ず行う。
- ②教員（顧問）不在時、又は救助艇で海に出られないときは、海上練習は行わない。
- ③風速 10m/s 以上、波高 2m 以上、視程 1,000m 以下の場合、水温 5℃以下、震度 4 以上の地震及び津波注意報、警報発令時は練習を中止する。
- ④教員が操縦する救助艇 1 艇につき、海上練習可能なヨットは 3 艇までとする。
- ⑤緊急連絡手段として、救助艇には無線機を搭載する。
- ⑥ライフジャケット、ウェットスーツ、マリンシューズ、手袋等を装着する。
- ⑦台船、本船の進路から離れる。閉伊川河口の赤灯台と緑灯台を結ぶ線より北で海上練習をしない。
- ⑧艇庫の施錠を厳重に管理する。
- ⑨全部員が避難経路を確認し、有事に備える。

4 ヒヤリハット事例（令和 6 年 9 月時点）

<陸上競技>

- ・投擲種目練習の際、投げた円盤が、設置してあるゲージのギリギリに衝突した。ゲージを設置していても、周辺の安全確認は怠ってはならない。
- ・走路に入るときは声をかけるようにしているが、他団体の活動者と意思疎通が取れず衝突しそうになった。

<バスケットボール>

- ・部活動開始時に顧問の校舎間移動が間に合わない。気温高温時、ウォーミングアップを始めているので、体調を確認しないままスタートしている。

<バレーボール>

- ・ボールを追いかけて、体育館を半分に仕切っているネットに突っ込む。足が絡まってしまい転倒する。

<卓球>

- ・卓球台を設置するとき、安全装置を解除しないまま無理やり倒して、勢いよく床に台が落ちる。足を挟みそうになる。
- ・卓球マシンの球吸い込み口に、うかつに手を近づけて、吸い込まれそうになる。

<硬式野球>

- ・打撃ゲージや防球ネットが強風であおられ、近くにいる者に倒れかかる。
- ・打球が工業校舎の駐車場や、公道に飛び出し、歩行者や通行する車両にぶつかりそうになる。

<サッカー>

- ・ゴールの固定を忘れ、強風でゴールが倒れそうになった。

<ラグビー>

- ・タックル練習の際、別グループの者と同じ方向に転んでしまい、頭がぶつかりそうになった。

<ソフトテニス>

- ・外部での活動場所への徒歩移動時、道路を横断する機会が多く、通行車にひかれそうになった。
- ・藤原コートの付近に飲み物を調達できる場所が無く、練習中に水分補給不足になり、熱中症になりかけた生徒がいた。

<柔道・剣道>

- ・高温、暑さ指数（WBGT）がぎりぎりの数値であったが、大会直前であったため練習していたところ、熱中症になりかけた生徒がいた。

<ヨット>

- ・ヨットの端に足をかけて操縦することがある。バランスを崩すとヨットから海へ落下してしまう。海水温が低いときは、低体温症にすぐになるので危険。
- ・ヨットをスロープに上げるとき、スロープに藻が大量に生えており、足を滑られて転倒。前歯を折った。

<ソフトボール>

- ・グラウンドを囲む防球ネットが低いため、打球が近隣施設（自動車工場等）に飛び出す。人や車にぶつかる。
- ・グラウンド排水のための傾斜がきつい、大震災でグラウンドが歪んでいるのもあり、大雨が降ると水路ができってしまう。練習中、その窪みに足をとられ捻挫した。

<レスリング>

- ・実戦練習、乱取りを複数個所で行っているとき、壁や他のペアと衝突しそうになる。
- ・投げ技に抵抗しようと頑張りすぎて、頭部からマットに崩れてしまうときがあり危険。

4 附則

このマニュアルは令和4年6月17日より施行する。

このマニュアルは令和6年9月1日より施行する。

このマニュアルは令和7年9月1日より施行する。